



第一回

喜右衛門の会

正尊

起請文
翔入

屋島

大事
那須語



令和8年
7月18日(土)
午後1時開演
(12時開場)
於 京都観世会館

ご挨拶

自己の研鑽のため、一昨年まで続けてまいりました「宗一郎の会」。
多くの方にお力添えを賜りましたこと、心より御礼申し上げます。
おかげさまで、昨年、家名を襲名いたしましたことも、ひとえに
皆様方のご支援の賜物と篤く感謝いたしております。
さて今回より「喜右衛門の会」とあらためまして、ますます研鑽を重ねると
ともに、魅力的な作品をご覧いただけますよう、心を尽くして取り組んで
まいる所存でございます。

是非とも御高覧賜りますようお願い申し上げます。

第一回 喜右衛門の会

令和八年七月十八日（土）午後一時開演

於 京都観世会館

能

屋島

漁夫 田茂井廣道
漁翁 源義経の童 林喜右衛門

大事 那須語
從僧 大坪 賢明
旅僧 江崎欽次朗
從僧 松本 義昭

問 茂山 逸平

大鼓 河村凜太郎
小鼓 大倉源次郎

笛 杉 信太郎

後見 井上裕之真
観世三郎大 坂口 貴信

地謡

久田勤吉郎 河村 晴道
関根 祥九 杉浦 豊彦
河村 和貴 観世 清和
橋本 忠樹 浦田 保浩

狂言後見 鈴木 実



十四世 林 喜右衛門



十四世 林 喜右衛門
(令和七年 家名襲名)

やしまたいじ なすのかたり
屋島 大事 那須語

「屋島」は香川県高松にある地名。源平合戦において、源義経が大活躍した古戦場である。

屋島合戦は、景清と

三保谷の「鍔引（しころびき）」や、佐藤嗣信・菊丸の最期、かの有名な那須与一の「扇的」のエピソード、そして義経の「三流（ゆみながし）」で知られる合戦である。

ある年の春、旅の僧が都から屋島に赴く。日が暮れたので、漁翁（老人の漁師）に泊めてもらう。昔の源平屋島合戦のことを尋ねると、漁師は「鍔引」のことを詳しく語って聞かせる。僧はあまりの詳しさに不思議に思い、名を尋ねる。漁翁は「潮の落ちる春の暁は修羅の時、その時に名乗ろう、よし常の浮き世の夢はし覚まし給ふなよ」と言い残り、姿を消す。（中へ）

浦の者が帰ってくる。那須与一の「扇的」を、しかた話に語って聞かせる。

夜更け、僧の夢に源義経が在りし日の甲冑（かっちゅう）姿で現れ、自ら「三流」のことを語り、更に修羅の戦いの様を見せる。やがて春の夜が明けると僧の夢は覚め、源義経の姿は無く、敵と見えていたのは鯛（かめゆ）の、開の声

狂言

鳴子遣子

茶屋

茂山 逸平

逆山人 茂山 竜正
逆山人 茂山 虎真

後見 鈴木 実

仕舞

實盛

観世 清和

地謡

杉浦悠一朗
浦田保浩
杉浦豊彦
関根祥丸

能

義経

静

江田

熊井

観世三郎太

林 小梅

樹下 千慧

河村浩太郎

土佐坊正尊 林喜右衛門

正

尊

起請文
翔入

武蔵坊弁慶 福王茂十郎

間 茂山 慶和

大鼓 河村 大
小鼓 曾和 鼓堂 大

大鼓 前川 光長
笛 杉信 太郎

姉和 井上裕之真
立衆 林 彩八子
吉田 和史
橋本 充基
寺澤 拓海
山本 麗晃
久田勘吉郎
杉浦悠一朗

後見

田茂井廣道
観世 清和
味方 團

地謡

大江 泰正 松野 浩行
河村 和貴 河村 晴久
林本 大 井上 嘉介
齊藤 信輔 坂口 貴信

附祝言

終了予定時刻 午後五時頃

主催 林能楽会

（ときのかえ）と聞こえていたのは浦に吹く風、高松の朝風であった。

この度は小書（特殊演出）がつく。「大事」は、「三流」と「素働（しらはたらき）」、二つの重い演出を行うという意味である。通常はじつと座ったまま表現するところを、義経が弓を落とす（弓流、それを、危険を顧みずに取り返しにい）（素働）、という場面が、所作と、特別な囃子ごとで演じる。扇を弓に見立てる。また、この小書がつくと、アイの語りが、とても見ごたえのある那須与一の「扇的」を語る「那須語」に替わる。これも重い習である。

しやうそん きしやうもん かけりいり

正尊 起請文 翔入

「正尊」とは源義経を狙った鎌倉よりの刺客十佐坊正尊のこと。

能「正尊」は、源平合戦で平家が滅んだあとのお話。いわゆる「堀川夜討」のエピソードの舞台化である。



十三世 林喜右衛門 (昭和十六年～平成二十九年)

鎌倉殿源頼朝と不仲となった義経の居る都（京都）に、鎌倉から正尊がやってくる。正尊の上洛を知った武蔵坊弁慶は、正尊を義経の前に引き連れてくる。刺客であろう、と疑いをかけられた正尊は「起請文」を書き、読み上げることその場を逃れる。

しかし、やはり正尊は刺客だった。正尊が討ち入る支度をしていると知るや、義経らはこれを迎えうつ。果たして、正尊は郎等を伴い攻め入るも、義経には及ばず、捕えられるのだった。

能「正尊」は、登場人物が豪華。源義経、静御前、武蔵坊弁慶といった有名なキャラクターが登場する。前半に「三読物」の一つ「起請文」があり、後半には派手な斬組をみせる、見ごたえのある人気曲。緊迫した場面の言葉の応酬、押しやり、引いたりの駆け引きは、謡の醍醐味を味わえる。

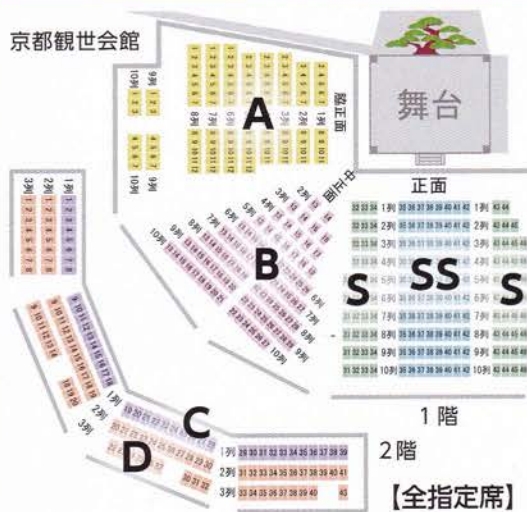
「三読物」とは《安宅》の「勸進帳」、《正尊》の「起請文」、《木曾》の「願書」の三つをいう。シテが一人で読み上げる。間も、節付けも、とても高度な技術、気力を要する「謡どころ」である。

この度は「翔入」という小書での上演。これは、普段より多くの正尊の郎等が出て、「喚き叫んで戦うたり」の後に「翔入」を入れて、江田、熊井と手数尽くして戦う演出をいう。



十四世
林喜右衛門

TICKET



- SS席 (正面 - 中央) …… 12,000 円
- S席 (正面 - 端側) …… 10,000 円
- A席 (脇正面) …… 8,000 円
- B席 (中正面) …… 6,000 円
- C席 (2階 最前列) …… 5,000 円
- D席 (2階 後列) …… 3,000 円

ご予約 [4月27日(月) より受付開始]

TEL 075-751-8158 林能楽会

- * 平日 10:00 ~ 17:00 * 座席指定不可
- * お振込先はこちら * お振込期限は 7月10日(金) まで
- ・京 都 銀 行 銀閣寺支店(141) 普通 3346201 林能楽会
- ・三 菱UFJ銀行 聖護院支店(445) 普通 0138739 林能楽会

対面 京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町4-4
* 月曜休館 9:00 ~ 17:00 * 座席指定不可

web 座席指定ができる「京都能チケ」
<https://hayashi-soichiro.jp/schedule>



1. 右のQRコードを読み取る
2. 「チケットのご予約はこちらから」より「京都能チケ」へ
3. お席を選び、カード決済または口座引落にて購入完了
* 初回のみペイパルアカウント登録必要
4. 公演当日、自動返信メールを会場で提示
* ネット予約：7月17日(金) 21:00 まで
* 座席選択後、30分を超えますと座席が自動的にキャンセルされた状態で決済されますのでご注意ください。

京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町4-4



注意事項 ・チケット購入後のキャンセルは一切できません。
・上演中の撮影、録音、録画は禁止です。・上演中は携帯電話等の電源をお切りください。・他のお客様の観能の妨げになると判断した場合は退席をお願いする場合がございます。